

# 森林やまがた

No.182

2019.7



山形県森林協会は、『美しい森林づくり推進国民運動』を推進しています。



## 目次

「やまがた森の感謝祭2019」を開催.....2	普及情報
令和元年度山形県森林・林業功労者表彰.....4	山形県版「カラマツ造林の手引き」.....12
平成31(令和元)年度森林整備関係事業	森の人紹介
(国庫補助事業)の概要.....5	佐々木隆馬さん・吉田博之さん.....13
森林環境緊急保全対策事業.....6	木の温もりに包まれて
「2019全国山菜サミット in 真室川」開催.....7	～寒河江市立なか保育所～.....14
再造林に必要な苗木・種子の供給.....7	最上町管内の高性能林業機械の導入状況.....15
みどりのページ	(株)ヤマムラがJAS機械等級製材工場を整備.....15
平成31年度緑の募金街頭キャンペーン.....8	白鷹町の森林・林業再生への取組みと
平成31年度緑化推進事業助成金の	まちづくり複合施設整備について.....16
交付決定について.....9	「J Tの森 鶴岡」第3期協定締結.....17
フォレスト通信.....10	「やまがた絆の森」と連携した森林整備について.....18
森林組合長に聴く.....11	丸太価格・製材品価格の推移.....18

(表紙写真は、5月14日に開催した令和元年度山形県森林協会通常総会の状況)

# 「やまがた森の感謝祭2019」を開催

山形県では、6月の第1土曜日を「やまがた森の日」と定め「やまがた森の感謝祭」を開催しています。

今年度は、6月1日に酒田市の「山形県眺海の森」を会場に、「自然の恵み 守ってつなごう 山形の森」をテーマに開催しました。

開式指令として松山藩荻野流砲術伝承保存会による演武と、オープニングアトラクションとして片町・北町奴振連中による奴振りが披露され古式銃の音と力強い奴振りのかけ声が初夏の眺海の森に響き渡りました。

式典では、主催者を代表して吉村知事が「本県の豊かな森から得られる『自然の恵み』を暮らしに活かしながら、山形の森を豊かなまま、次世代につなげる『みどりの循環』の輪が大きく広がることを祈念します。」と挨拶しました。

森林・林業功労者の表彰では、木材・林産の振興部門で酒田市の阿部昭（あべあきら）氏に感謝状が贈られました。

また、山形県CO<sub>2</sub>森林吸収量認証制度による森づくり認証では、25の企

業・団体が認証され、代表して日本たばこ産業株式会社と株式会社荘内銀行に認証書が授与されました。



緑の少年団に託されたリレー旗

森づくりリレー旗の交付は、吉村知事から酒田市の緑の少年団に手渡され、今年度の森づくりリレーがスタートしました。

式典の最後には、吉村知事と「緑の少年団」の子ども達や森林ボランティアリーダー、さらに酒田市公認マスコットキャラクター「もしえの

んとあののん」や県内各地のご当地キャラクターなども応援にかけつけ、「森に感謝し、森を育て、暮らしや産業に活かして、『やまがた森林（モリ）ノミクス』を進めましょう。そして、県民みんなで支える森づくりの輪を広げ、豊かな緑と水のバトンを未来につなげていきましょう。」と力強く宣言しました。



会場全員で「森づくり宣言」

ト株式会社から寄贈された「ソメイヨシノ」を植樹しました。



植樹後の記念撮影

また、「森のホームステイ」の活動も行いました。これは、森で採取したブナなどの種子を竹ポットに植え、各家庭や学校、職場などで育てた苗木を、再び森に返すというものです。今回は、100鉢の竹ポットを準備し、みなさんに持ち帰っていただきました。このほかに、会場内の展示・体験・販売コーナーでは、「やまがた緑環境税」を活用した森林整備のパネル、絆の森協定企業による森づくり活動紹介パネルの展示のほか、竹笛や竹

とんぼづくりなどの木工クラフト体験、山形県猟友会による模擬銃の試射体験など様々な催しが行われました。



「木工クラフト体験」の様子

森づくり活動では、緑の少年団が歩道にウッドチップ敷き、一般参加者が植樹や刈払いを行いました。ウッドチップ敷きの会場では、各班に分かれバケツなどを利用してチップ敷きを行い、完了後は、チップのカフカした感触を楽しみました。

感謝祭当日は、朝から雲ひとつない晴天となり、照りつける日差しのもと、約100人の方々から参加いただき、眺海の森で楽しい一日を過ごすことができました。



「ウッドチップ敷き」の様子

**山形トヨペット株式会社から  
寄贈していただきました**

「やまがた森の感謝祭」の開催に先立ち、5月21日に山形トヨペット株式会社の鈴木寿昭社長と緑の大使であるミス・インターナショナル日本代表の岡田朋峰（おかだともみ）さんが来庁され、福島県産ソメイヨシノのほか苗木60本と森づくり活動で使用する児童用ヘルメット80個を若松副知事に贈呈していただきました。

これは、トヨタ自動車株式会社と全国のトヨペット店共同による「第44回トヨペットふれあいグリーンキャンペーン」の一環として行われているもので、緑の大使からは協賛を受けている公益社団法人国土緑化推進機構からのメッセージも伝えられました。若松副知事からさくらんぼのブローチがプレゼントされるなど、終始和やかな懇談となりました。贈られた苗木は、感謝祭での記念植樹として植樹されました。また、ヘルメットについては、子ども達の森づくり活動で活用させていただくことにしています。



贈呈された方々との記念撮影

〔県みどり自然課〕

## やまがた森林ノミクス”を推進します 山形県森林組合連合会

代表理事会長 佐藤 景一郎

〒990-2339 山形市成沢西四丁目9番32号  
TEL 023-688-8100 FAX 023-688-8103

《県内13の森林組合とともに 山形の森林を守り 育て 有効活用してまいります》

山形地方森林組合	天童市森林組合	西村山地方森林組合	北村山森林組合	東根市森林組合
最上広域森林組合	金山町森林組合	米沢地方森林組合	西置賜ふるさと森林組合	
小国町森林組合	出羽庄内森林組合	温海町森林組合	北庄内森林組合	

# 山形県森林・林業功労者表彰

◆はじめに

6月1日(土)に山形県眺海の森(酒田市)で「やまがた森の感謝祭2019」が開催され、その式典において、森林・林業功労者に吉村知事から、感謝状が贈呈されました。



吉村知事と受賞された阿部昭氏

◆山形県森林・林業功労賞  
功労賞は、

- 一 「森林づくり」
- 二 「森林保護保全」
- 三 「山村・林業の振興」
- 四 「木材・林産の振興」
- 五 「緑化の推進」
- 六 「県民参加の森づくり」

の6部門があり、毎年、森林・林業の振興及び緑化推進等に顕著な功績を残し、推薦された個人や団体を対象に表彰し、平成3年度からこれまで、個人47名、団体29団体が受賞されております。

今年度は、「木材・林産の振興」部門から、一個人が受賞されましたので、その功績についてご紹介します。

◆「木材・林産の振興」部門

阿部 昭氏

氏は、山形県木材産業協同組合理事長を2期4年間勤め、県産木材の率先利用と本県林材業の指導的役割を担いました。

株式会社阿部製材所の役員(社長、会長)として、21年間、従業員28名を雇用し、地元の雇用安定に貢献されております。

製材所が一年間に消費する木材量は、約8千立方メートルで、その5割は地域産の杉を使用し、製材品の生産量は年間約5千立方メートルで、その多くを地域の家づくりネットワーク

が建てる住宅へ供給し、地域材の需要拡大に大きく寄与されました。また、日本農林規格(JAS)の認定を受け、高品質な木材製品を安定供給し、地域の木材関連事業の振興と地域材の販路拡大に努められました。その他、自社有林と周囲の小規模な私有林を集約し森林経営計画を作成し、効率的な路網配置と一体的な森林整備による低コスト施策に取り組み、搬出した木材の販売収益を積極的に地域に還元されました。



吉村知事と受賞された阿部昭氏

◆おわりに

阿部昭様、この度は誠にありがとうございます。今後のますますのご活躍をご期待申し上げます。

(県森林ノミクス推進課)

受講生募集中

## 木材加工用機械作業主任者技能講習会を開催します!

製材工場(丸のご盤、帯のご盤、かんな盤等5台以上設置。帯のご盤に自動送材車付き帯のごが含まれる場合は3台以上対象)は「木材加工用機械作業主任者」の配置が義務づけられています。欠員など主任者のいない事業所は受講してください。

受講要件: 木材加工用機械による木材加工作業に3年以上従事した経験を有するもの。

開催日時: 令和元年9月11日(水)・12日(木) 8:30~17:30

場所: 山形県森林研究研修センター 研修館 (寒河江市大字寒河江丙2707)

お問い合わせ(申込先) 〒990-2473 山形市松栄1-5-41

林業・木材製造業労働災害防止協会山形県支部

TEL:023-666-4810 FAX:023-666-4811



# 平成31(令和元)年度森林整備関係事業

## (国庫補助事業)の概要について

### はじめに

近年、県内各地に大型木材加工施設の本格稼働や木質バイオマス発電施設の整備が進み、県産木材の需要が増大していることから、安定的な原木供給が必要となっています。

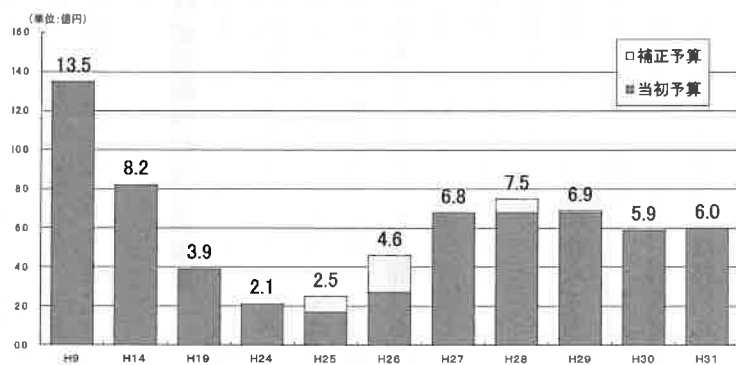
県では、森林施業支援事業や合板・製材・集成材生産性向上・品目転換促進対策事業などの国庫補助事業を実施し、再造林や保育、間伐材生産等に対する支援を行っています。

このたび、平成31(令和元)年度の森林整備関係の各事業(国庫補助事業)の概要や事業執行上の留意点を整理しましたので、お知らせします。

### ● 県予算の状況

森林施業支援事業の県予算額は、前年度とほぼ同額の約6億円、林業・木材産業成長産業化促進対策事業については約6百万円、平成30年度の国の補正予算に伴い措置された合板・製材・集成材生産性向上・品目転換促進対策事業については約1億7千万円となっています。県では、各種国庫補助事業を活用し、森林整備を推進していきます。

森林施業支援事業の予算額の推移



### ① 森林施業支援事業の共通仮設費について

令和元年8月1日、労働安全衛生規則の一部が改正される予定で、主な改正内容は、次の3点です。

① 伐木作業において受け口を作るべき立木の対象を胸高直径40cm以上のものから20cm以上のものに拡大

② かかり木処理に関して、あびせ倒しの禁止、かかり木処理の立ち入り禁止区域の設定等を規定

③ 事業者に対するチェーンソーによる伐木等作業を行う労働者への下肢の切創防止用保護衣(防護ズボン又はチャップス)の着用の義務付け

③ の改正に伴い、森林施業支援事業では、保護衣に係る費用が共通仮設費に含まれるため、これまで直接費の7.5%としていましたが、平成31年度より7.7%に改正となり、伐採作業を実施する場合は、引き続き現地状況を確認し安全に十分配慮するとともに保護衣着用を徹底するようにお願いします。

### ② 森林施業支援事業の事業主体について

平成31年4月1日に森林経営管理法が施行されました。これにより、森林経営管理法第36条第2項の規定により公表された民間事業者(意欲と能力のある林業経営者)が、経営管理実施配分計画に基づき実施する間伐等についても支援対象となります。これを受け、今後、森林施業支援事業の県例規等の改正を行う予定とされています。

### ③ 林業・木材産業成長産業化促進対策事業について

本事業では、意欲と能力のある林業経営者に森林の経営・管理を集積・集約化するとともに、川上から川下までの連携による生産・加工・流通コストの一体的な削減を図る取組みへの支援を目的としています。

メニューの一つである間伐材の生産については、路網等の生産基盤を重点的に整備する「生産基盤強化区域」内で実施することで、間伐材生産のコスト削減と川下への木材の安定供給を図ることとしています。

### ④ 合板・製材・集成材生産性向上・品目転換促進対策事業について

本事業では、国際的競争力強化に向け、体質強化計画の事業対象区域において、幹線となる路網整備と搬出間伐を実施し、合板・製材・集成材工場に対して低コストで安定的に原木を供給することを目的に実施するものです。

### ● おわりに

県では、安定的に原木を供給するため、計画的な主伐と間伐を進めるとともに、森林資源の循環利用に向け伐採後の再造林の着実な実施を推進していくこととしていますので、積極的に取組んで頂くようお願いいたします。

〔県森林ノミクス推進課〕

# 森林環境緊急保全対策事業

## 「やまがた緑環境税による森林整備」

### ◎ 森林環境緊急保全対策事業

やまがた緑環境税を活用した森林整備は、平成19年度から実施しており、平成29年度までの11年間の実績は約1万2900haとなっています。

平成30年度の森林整備について、

① 荒廃森林緊急整備事業、② 森林資源再生事業、③ 森林資源循環利用促進事業、④ 広葉樹林健全化促進事業の4つの事業ごとに取組実績をお知らせします。

### ① 荒廃森林緊急整備事業

本事業は、荒廃のおそれのある人工林の間伐や、活力が低下している里山林の森林病害虫などによる被害木伐採等の森林整備を行うもので、平成30年度の実施面積は、1135haとなりました。内訳は、荒廃のおそれのある人工林の整備は617ha、病害虫等で荒廃した里山林再生のための森林整備は518haとなっています。

### ② 森林資源再生事業

本事業では、森林の有する公益的機能の維持造林及び持続的発揮のために、再造林に要する経費の一部を

支援しています。国庫補助事業に嵩

上げし、事業者の協力金等で運営される民間基金からの支援等と併せて、森林所有者の負担なく再造林できる仕組みとしており、平成30年度は、森林経営計画策定区域内等で実施された再造林27haに対し、支援を行いました。

### ③ 森林資源循環利用促進事業

本事業では、人工林における間伐材等の低質材を集成材や合板・ペレット等のバイオマス燃料等として利用するための搬出等を支援し、環境保全に配慮した木材の利用促進を図ることとしており、平成30年度は、低質材約5万600立方メートルに対し支援を行いました。

低質材については、新たな木質バイオマス発電所の稼働など、需要の増加が見込まれています。低質材であっても、利用可能な材は林内に放置せず、循環利用の推進に向け、是非本事業を活用してください。

### ④ 広葉樹林健全化促進事業

本事業では、ナラ林等を伐採し、健全な広葉樹林に更新するため、材

の搬出及び作業道設置を支援しており、平成30年度は搬出された約1480立方メートルに支援を行いました。

### ◎ 令和元年度の森林整備計画

やまがた緑環境税による森林整備の中核となる荒廃森林緊急整備事業は、目標である1160haの森林整備を行うこととしています。

また、森林資源再生事業は、国庫補助事業への嵩上げ補助を継続するほか、小面積再造林を行った場合の苗木経費の全額支援も継続しますので、是非ご利用ください。

さらに、令和元年度の取組として、森林の公益的機能の維持増進に資するための低コスト再造林実証事業を行うこととしています。昨年度に植栽した箇所について、今年度から下刈り回数の低減について検証を行い、育林方法の一つとして提案できればと期待しています。

今後とも、やまがた緑環境税を活用した森林整備について、広く周知を図り、着実に進めてまいりますので、皆様の御理解と御協力をお願いします。

〔県森林ノミクス推進課〕

## 木造建築は新たなステージへ。

～大規模・中高層×耐火性能×地域産木材活用～

木質耐火部材 COOL WOOD。【1時間・2時間・3時間耐火】

国内初・3時間耐火の国土交通大臣認定を取得  
超高層ビルにも木造を取り入れられる

- ① 核となる「構造部」と「表面材」に木材を使用
- ② 中間部の「燃え止まり層」に石膏ボードを使用
- ③ 地域産木材が活用可能



Shelter® 木造都市のバイオニア  
株式会社 シェルター

本社 山形市松葉1-5-13  
東京支社 港区芝5-13-15 三田森ビル  
仙台支社 仙台市青葉区本町2-18-21 タケダ仙台ビル  
プレカット工場 寒河江市栗沢東209-1

TEL023-647-5100  
TEL03-5418-8800  
TEL022-797-5800  
TEL0237-86-8529

www.shelter.jp

# 「2019 全国山菜サミット in 真室川」の開催について

## ◆開催目的について

真室川町は、昔から林業が盛んな地域であり、やまがた森林（モリ）ノミクスの推進に合わせて林業・木材産業の成長化に取り組んでおります。その展開に弾みをつけることと、山菜による地域振興の可能性を広げていくことを目的として、全国山菜サミットを開催いたしました。

## ◆当日のイベントについて

5月31日（金）、真室川町中央公民館を会場に全国山菜サミットを開催いたしました。オープニングアトラクションとして、町内に古くから伝わる伝統芸能の釜淵番楽と全国的に有名な民謡の真室川音頭が披露されました。

開会式後の基調講演では木田マリ氏（料理家・フードコーディネーター）を講師に迎え、『無形文化遺産「和食」と家庭料理』というタイトルで講演を行っていただきました。

基調講演後は、山菜料理試食タイムとして、「山形フレンチシェ・ボン」小松秀文シェフによる創作料理と「町食生活改善推進協議会」による伝統料理の試食会が行われ、参加者は様々な食材と山菜のコラボレーション

を楽しみました。

山菜料理試食タイム後は、『山菜を活用した地域振興』をテーマにパネルディスカッションが行われ、山菜を取り巻く環境について共通認識を持つとともに、様々な分野で活躍する方々が山菜の魅力や可能性を話し合いました。

6月1日（土）は、のぞきわらび園でのわらび採り体験と、林業遺産見学ツアーを開催しました。林業遺産見学ツアーでは真室川町歴史民俗資料館に展示されている「窓鋸」など鋸類の見学、森林トロッコ列車の乗車体験を行い、参加者は真室川町の林業の歴史を体験しました。

〔真室川町〕



〔写真〕 山菜料理試食タイム

# 再造林に必要な苗木・種子の供給について

森林資源の循環利用に向けた主伐後の再造林を推進するためには、需要に見合う優良な種子と苗木の安定供給が必要となります。

県の林木育種園は、県内唯一の林業用種子生産施設として、多様化するニーズに対応した優良種子を生産しています。従来の耐雪性、成長の良い品種に加え、近年では少花粉スギやマツノザイセンチュウ抵抗性クロマツなどの種子生産と、効率的な種子生産のためのミニチュア採種園の造成を進めています。

再造林に係る経費を軽減するためには、苗木生産と植栽作業の効率化が期待できるコンテナ苗の活用が重要となります。そのため、平成27年度から県単独事業のコンテナ苗普及促進事業を実施し、生産出荷に必要な施設整備等を支援しています。

今後は、苗木生産技術の指導等を通して、生産者の技術向上と新規参入者の育成を行うことで生産量を増大するとともに、造林計画に基づく需要情報を生産者に提供することで需要に応じた供給体制を整え、再造林を着実に進めていきたいと考えています。〔県森林ノミクス推進課〕

平成30年度種子配布量（実績）

樹種・品種	配布可能量	換算苗木生産量
スギ精英樹	121kg	約482万本
スギ少花粉品種	8kg	約32万本
スギ耐雪性品種	34kg	約135万本
クロマツ精英樹	0.9kg	約2万本
暫定抵抗性クロマツ(※)	0.6kg	約1万本
抵抗性クロマツ(※)	0.02kg	約0.04万本
抵抗性アカマツ(※)	0.2kg	約0.5万本

(※) マツノザイセンチュウ抵抗性品種



県林木育種園のミニチュア採種園



みどりのページ

平成31年度緑の募金街頭キャンペーンを行いました

(公財)山形県みどり推進機構では、新緑が芽吹く4～5月を「春募金」の期間として、緑の募金への協力を呼び掛けています。いただいた募金は、森林の整備や身近な緑を増やす活動などに活用されます。

特に、4月15日から5月14日まで緑の募金強調月間【みどりの月間】としています。県内各地で緑の募金街頭キャンペーンを開催し、「緑の募金」を広く県民の皆様に周知するとともに、募金への協力を幅広く呼び掛けました。

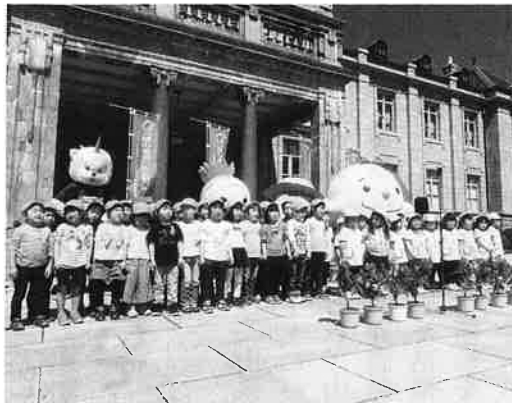
緑の募金街頭キャンペーン出発式

◆期日 平成31年4月18日

◆場所 文翔館前広場(山形市)

これまで緑の募金に功績のあった企業や団体の皆様への感謝状の贈呈や、保育園児が育てたどんぐりの苗木の贈呈、保育園児による緑のメッセージの読み上げなどを行いました。また、一般参加者には今年も西洋シヤクナゲの苗木をプレゼントし、今年度の緑の募金活動は華やかなスタートを切りました。

出発式の後には山形駅や七日町周



保育園児による緑のメッセージ

辺に加え、花見客で賑わう霞城公園の周辺でも街頭募金活動を行い、多くの善意をいただくことができました。

◆平成31年度感謝状贈呈団体

青山建設グループ、有賀建設(株)、(有)エコファーム長井、M木工、(株)柿崎工務所、(株)カナン、(株)幸輪、蔵王食品(株)、(株)ザオー測量設計、(株)三和城北電気工事(株)、山形県国民健康保険団体連合会、(株)山形メタル、(株)ユアス(五十音順)

◆街頭募金に協力いただいた団体

山形県緑を育てる女性の会  
山形グリーンライフ女性の会  
成沢グリーンフィールド協力隊  
東海大学山形高等学校(順不同)  
◆募金額 44,519円

緑の募金にご協力いただいた企業・団体のみなさま (H31.4.1～R1.5.31)

(山形県みどり推進機構取扱い分)

アイ・エム・マムロ(株)、(株)朝日測量設計事務所、(株)阿部林業、(株)荒正、(株)ウエステック山形、(株)漆山木材店、(株)榎本測量設計事務所、(有)遠田林産、大江設計(株)、(株)大山製材所、岡崎医療(株)、(株)沖田木材産業、加賀マイクロソリューション(株)、(株)カキザキ、(株)春日測量設計、(株)克技術設計、小菅野代自治会、(株)蔵王ミート、(株)ザオー測量設計、寒河江ライオンズクラブ、寒河江ロータリークラブ、(株)佐藤工務、(有)佐藤測量設計事務所、(有)三英クラフト、(特養)山静寿、(株)三和技術コンサルタント、JA全農山形、JAやまがた、JA山形中央会、JA共済連山形、(株)シェルター、白鷹ライオンズクラブ、新庄信用金庫、(株)鈴木久測量設計事務所、(株)鈴木測量事務所、スズキハイテック(株)、(株)スペースパーツ山形、全国健康保険協会山形支部、高島ロータリークラブ、(株)託人會、TPR工業(株)、テクノモリオカ(株)、(株)テトラス、(株)出羽測量設計、東北電力(株)山形支店、(株)内外ビルクリーン、長井中央ロータリークラブ、中山ロータリークラブ、南陽東ロータリークラブ、(一社)日本自動車販売協会(連)、NOSAI山形、農林中央金庫山形支店、(株)フィデア総合研究所、(有)フジハラ自動車、(株)北桜林業、(株)北都測量設計、(株)本間工務社、(株)マイスター、ミドリオートレザー(株)、村山ローズロータリークラブ、(株)山形銀行県庁支店、山形県医師会、(公社)山形県観光物産協会、(公社)山形県看護協会、(公財)山形県企業振興公社、山形県軽自動車協会、山形県後期高齢者医療広域連合、(公財)山形県国際交流協会、山形県国民健康保険団体連合会、(公財)山形県産業技術振興機構、山形県市長会、山形県市町村職員(共済)、山形県社会福祉協議会、山形県商工会(連)、山形県職業能力開発協会、(公社)山形県私立学校総連合会、山形県信用保証協会、(公財)山形県スポーツ協会、山形県中小企業団体中央会、山形県町村会、山形県土地改良事業団体(連)、(公財)山形県埋蔵文化財センター、(公財)山形県林業公社、山形酸素(株)、(株)山形城南木材市場、(協組)山形木造住宅プレカットシステム、(有)山口製材所、米沢信用金庫、米沢中央ライオンズクラブ、米沢ライオンズクラブ、(有)渡部製材所、(株)渡会電気土木

(以上、敬称略・五十音順)

ご協力ありがとうございました。





みどりのページ

(公財)山形県みどり推進機構

ボランティアで行う緑化活動などに助成する緑化推進事業には、今年度も多くの応募をいただきました。採択事業が下表のとおり決定しましたのでお知らせします。

**平成31年度緑化推進事業  
助成金の交付決定について**

- ◆ 期日 令和元年5月11日
  - ◆ 場所 エスモール(鶴岡市)
  - ◆ 募金額 5,884円
- オオムラサキツツジの苗木をプレゼントしながら、買い物客で賑わうエスモールで募金活動を行いました。

**庄内地域街頭キャンペーン**

- ◆ 期日 平成31年4月20日
  - ◆ 場所 上杉城史苑周辺(米沢市)
  - ◆ 募金額 30,754円
- 桜も見頃を迎えた中で、米沢市緑の少年団員が元気いっぱい募金への協力を呼び掛けました。

**置賜地域街頭キャンペーン**

- ◆ 期日 平成31年4月21日
  - ◆ 場所 新庄駅前ほか
  - ◆ 募金額 60,062円
- 北辰小学校みどりの少年団、新庄北高校、新庄南高校から大勢のボランティアが集まり、元気よく募金活動を行いました。

**最上地域街頭キャンペーン**

**公益財団法人山形県みどり推進機構 平成31年度緑化推進事業 交付決定一覧表**

(単位:千円)

市町村	申請団体	採択額	市町村	申請団体	採択額
①都市・農山村の環境緑化整備事業(1件あたり上限30万円)			②都市・農山村の環境緑化維持管理事業(1件あたり上限10万円)		
天童市	天童・不思議の森	210	金山町	楯山を愛する会	72
中山町	柳沢(やんくさ)もりあげ隊	233	金山町	楯台地区公園保全会	70
朝日町	大沼区	144	金山町	羽場地区自治会	70
朝日町	大谷連合区	210	金山町	安沢地区	66
尾花沢市	清流と山菜の里ほその村	210	最上町	緑を愛する会	80
尾花沢市	二ツ森観光開発促進委員会	210	米沢市	窪倉豊心会	70
舟形町	縄文里の会	189	米沢市	特定非営利活動法人斜平山保全活用連絡協議会	70
南陽市	特定非営利活動法人美しいやまがた森林活動支援センター	135	米沢市	芳泉町桜の会	67
高畠町	飯森区会	240	米沢市	芳泉町町内会	70
高畠町	高安秋葉山の緑化活動の会	210	米沢市	芳泉町直江堤公園維持管理組合	70
長井市	花と緑・環境の会	210	米沢市	三沢花いっぱい運動推進協議会	70
飯豊町	飯豊町東部地区活性化協議会	147	米沢市	米沢市立第六中学校父母と教師の会	70
飯豊町	お伊勢堂里山再生協議会	210	南陽市	岩部山三十三観音保存会	70
鶴岡市	あつみ湯けむり女子会	210	高畠町	ぬかのめ桜会	47
②都市・農山村の環境緑化維持管理事業(1件あたり上限10万円)			長井市	伊佐沢地域振興会	80
山形市	館山会	51	長井市	岡鼠原のみ会	49
山形市	成安癒しの川(白川)を守る会	70	長井市	勸進代区	80
山形市	山形グリーンサークル	70	白鷹町	鮎貝区	66
山形市	山形グリーンライフ女性の会	70	飯豊町	上郷地区緑化推進協議会	70
天童市	上貫津町内会	70	鶴岡市	温海温泉自治会	70
天童市	立谷川の花さかじいさん	80	鶴岡市	木野俣自治会	70
天童市	津山の自然を守る会	70	鶴岡市	小菅野代自治会	70
天童市	奈良沢さくら公園管理委員会	70	鶴岡市	昭和通り振興会	63
山辺町	大塚自治会	70	鶴岡市	鶴岡コミュニティガーデン	70
山辺町	大蕨棚田さくら公園設置管理運営委員会	70	鶴岡市	鶴岡市温海第3地区自治会	70
山辺町	玉虫散策道能中峰を良くする会	70	鶴岡市	藤倉山ブナ林保存会	70
山辺町	ヒメサユリを植える会	14	鶴岡市	美原町町内会	70
山辺町	要害自治会	70	鶴岡市	山五十川自治会	56
中山町	月山櫻遊会	70	庄内町	あまるめさくら咲多会	70
中山町	天盃泉利用組合	70	③県土緑化の普及啓発・調査研究事業(1件あたり上限10万円)		
寒河江市	慈恩寺共有山林組合	70	山形市	山形県緑を育てる女性の会	59
西川町	石田町内会	45	朝日町	ひめさゆり愛好会	70
金山町	有屋地域公民館連絡協議会	70	小国町	Walnusswald	70
金山町	稲沢地区	63	酒田市	万里の松原に親しむ会	56
金山町	入有屋地区	70	④森林環境教育事業(1件あたり上限10万円)		
金山町	上台地区緑環境保全会	70	山形市	山形県指導林業士会	70
金山町	壮樹会	47			

## バラエティ豊かな四期生入校

### ◆四期生について

元号が平成から令和へと変わり、時代の節目を迎え、新たに四期生十一名が農林大学校に入校しました。男性十名、女性一名、出身地別では村山三名、最上一名、置賜一名、庄内四名、県外（福島県、宮城県）二名となっています。

これまで入校した学生のほとんどが林業とは縁もゆかりもなく、新たに林業を志す学生が大半でしたが、今年度入校の学生四名は、家業である林業事業体の経営を目指しているのが大きな特長です。近年の木材需要の高まりから、林業事業体各社とも事業拡大傾向にあることから、林業経営者の後継者育成について、農林大学校に大きな期待が寄せられています。四期生はスポーツが好きな学生が多く、動くことが大好きです。中学生の時に映画「WOOD JOB!」を観て林業を志した者、テレビで空師（特殊伐採）の仕事を見て志した者、アロマやバイオマスなど新たな林業の形を目指す者等、とてもバラエティに富んでいます。



### ◆授業・実習の様子（四月、五月）

最初の授業では、森林・林業の基本的知識から、林業の道具の種類、なた・のこの使い方、造林及び育林の方法、木材の特性、樹木の名前、測量方法、救命救急の方法、チェーンソーのメンテナンスの方法及び基本操作等を学びました。遅刻もすること無く、実習も一生懸命がんばっています。チェーンソーも基本的な操作はまだですが、堂々として

使っている様子です。今後、実習で立木の伐倒を行なっていくことになりませんが、安全な作業に向けて、知識と技術を十分に身につけてから臨みたいと考えています。

今後は刈払機や高性能林業機械の取扱方法に関する実習や、樹木匠による講義が予定されています。



このように個性的な面々の四期生ですが、彼らの今後の活躍にご期待いただき、技術習得や就業について、県内林業関係者の皆様から多くのご支援をお願いいたします。

〔山形県立農林大学校〕

## 土砂災害を防止・軽減するには「治山施設」が必要です 森林を整備・利活用するには「林道施設」が必要です

会長	新庄支部長	永井 敏行	永井建設(株)	理事	西村山支部長	佐藤 欣治	大東建設(株)
副会長	置賜支部長	那須 正	那須建設(株)	理事	北村山支部長	大山 圭介	大山建設(株)
副会長	庄内支部長	五十嵐久廣	鶴岡建設(株)	監事	東南村山支部	志田 賢一	(株)志田建設
理事	東南村山支部長	荒井 孝直	(株)山形組	監事	西村山支部	大泉 雅裕	(株)大泉組

山形県森林土木建設業協会 ◇事務所：山形市あさひ町16-21

TEL(023)632-3893 FAX(023)632-5454 E-mail: info@y-sinrin.jp

# 対談シリーズ 森林組合長に聴く

「森林組合長に聴く」第13回は、米沢地方森林組合代表理事組合長名取正治氏と、森林研究研修センター、鈴木良幸所長との対談です。総務課長の和田博人氏にも同席をしていただきました。

## 【対談者の紹介】

○米沢地方森林組合  
代表理事組合長 名取 正治氏  
米沢市在住 組合長1年目



所長…これまで9年間理事をされて、この2月に代表理事組合長を引き受けられました。理事として関わられていた時は、組合をどのようにご覧になっていましたか。

組合長…理事会が年に5・6回開催される訳ですが、業務の報告が主な

内容で、時には、事業が進まず困っているなどの話はあっても、新しい事業の提案などが少ない状況でした。所長…そのような中、何か提案はなされてきたのですか。

組合長…赤字解消のため様々な事業の提案を行いました。特に地域の特色である広葉樹を有効活用するため、木炭生産を提案したところです。理解を得るには時間を要しましたが、地元産ナラ材を使った黒炭の生産に着手し、生産した黒炭を東北芸術工科大学がネーミング及びパッケージデザインを考案した「やまが炭(たん)」として、米沢市内の燃料販売店が販売し、好評を得ています。

## 高性能林業機械の導入による効果

所長…平成29年度まで欠損金があったようですが平成30年度は黒字に転じています。高性能林業機械を購入されて、林産事業も本格的にやられているようですが黒字に転じたのはそういうところが大きいのでしょうか。

## 組合長…そうです。

理事時代、機械を導入すべきと提案しましたが、当時A材の価格も良くなく反対の声もありました。しかしながら、米沢・長井での木質バイオマス発電計画、新庄の集成材工場等の話があり、各課長から機械を導入

すれば効率的になるなどの声があり、機械の導入を進めてきました。その結果、県の「森林ノミクス」の施策の追い風もあり、丸太生産性の向上により、今では発電施設等への販売も順調に伸びており、黒字になった大きな要因に繋がったということです。

## 農林大学の卒業生を積極的に採用

所長…林産の直営班は何班・何人体制ですか。

## 組合長…2班9人体制です。

所長…先を見据えた時増員すると思う考えはどうですか。

## 組合長…今は内部留保に努めて足場を固める時と想っています。また、現職員の平均勤続年数は9年で、様々な経験を積んでいく時期だと考えています。

所長…まずは今の体制を維持し、将来的には増員強化するということですね。ほとんど若い方ですか。

## 組合長…40代が多いですね。20代には農林大学の1期生もいます。

所長…農林大学の卒業生を採用していたら、県としても大変ありがたいです。

## 組合長…我々もありがたいです。基礎を2年間学んできたということは、我々が現場で教えることの5年分く

らしい効果があるんですよ。所長…確かに実技を重視した授業、特にチェーンソーを使う時間を多くとるようにしているので即戦力になれるのかなと。

組合長…そうですね。あと林業に関する意識の問題なんですよ。農林大学の生徒は、自発的に林業をやりたいって進学し勉強してきたわけですから。将来的には1年に1人は採用したいです。

## 従業員を大切にしたい

所長…これからの組合の運営に対する考え方を聞かせください。

組合長…就任して間がなく未熟なところしか言えませんが、基本的には安全第一が目標です。あとは従業員を大切にすることです。自然の中で毎日作業を続けるために毎週月曜日に安全衛生会議を職員の皆さんに気持ちの伝わるような方向で行っています。4課ありますが1週間の業務内容を確認・共有し情報共有なども行っています。これを続けていき風通しのいい職場にしていきたいと思っています。

令和元年5月23日 森林組合にて  
対談全文はセンターホームページで  
「森林研究研修センター」

## 山形県版 「カラマツ造林の手引き」について

### ◆はじめに

本県の造林樹種といえばスギですが、近年、集成材のラミナや合板用材等で需要が伸びているカラマツに本県でも注目が集まっています。

しかし、本県では生育状況や収穫量についての情報が非常に少ないことから、カラマツ造林は近年ほとんど行われていませんでした。

そこで、植栽試験と既存のカラマツ林の生育状況の調査結果から、本県でのカラマツ造林の可能性について検討し、山形県版「カラマツ造林の手引き」を取りまとめましたので、その概要を紹介します。

### ◆調査方法

#### ○カラマツの初期生育特性

鶴岡市、金山町、西川町、南陽市に各1箇所植栽試験地を設定し、カラマツのほか、比較のためにスギを植栽しました。植栽3年目のカラマツとスギの苗木の生存率、樹高、根元直径、樹形等について調査を行いスギと比較しました。

#### ○カラマツの生育特性

県内の5〜65年生のカラマツ林145

林分のデータを元に、地位を「上」、「中」、「下」の3階級に区分した地位別の上層樹高曲線図を作成し、林分の地位ごとに樹高、胸高直径、立木本数、幹材積を林齢ごとに取りまとめてグラフ化することで、本県のスギと比較しました。

### ◆調査結果

#### ○カラマツの初期生育特性

初期生存率は、スギよりも劣る傾向が見られました。樹高成長はスギと同程度、直径成長はスギよりも劣る傾向が見られますが、立地環境によつては樹高成長、直径成長ともスギを大きく上回る可能性があります。また、スギに比べて雪害などの気象害を受けやすい可能性があります。

#### ○カラマツの生育特性

樹高は、スギに比べ幼・若齢期から高く、胸高直径はカラマツの地位の高い箇所ではスギと同程度、地位の低い箇所ではスギより細い傾向が見られました。また、立木本数はスギに比べ初期段階での減少が著しく、材積についてはスギに比べ全体的に少ない傾向があります。

### ◆本県でのカラマツ植栽について(まとめ)

#### ○立地環境的観点から

低標高であり、かつ土壌型が弱湿性〜適潤性の褐色森林土、堆積様式が崩積土の場所がカラマツの植栽適地です。ただし、積雪深250cm以上で、常風の強い風衝地や凹地などで融雪水が停滞する箇所を避けて植栽することが重要です。

#### ○経営的観点から

適切な環境への植栽と適切な管理によつてスギに代る造林樹種として期待でき、短伐期を想定した森林経営により向いていると考えられます。

ただし、スギに比べて病虫獣害のリスクが高く、初期保育での早期の下刈りと徹底したツル切りが必要となります。

山形県版「カラマツ造林の手引き」については、各地域の総合支庁森林整備課にお問い合わせください。



〔森林研究研修センター〕

「木の家」のぬくもりを最先端の技術で住まいの品質と安全をサポートします。

## 森の人紹介

### エコツーリズムを地域の産業に

大江町山里交流館

「やまさあーべ」館長

佐々木 隆 馬さん



大江町の

山里交流館

「やまさあ

ーべ」で館

長を務めな

がら、動植

物の観察や農林業体験などのプログラムを利用者に提供している佐々木隆馬さんを紹介します。

佐々木さんは神奈川県出身。大学では爬虫類・両生類の研究をし、卒業後は埼玉県自然保護団体に環境教育に携わった経験の持ち主です。

佐々木さんが「ネイチャーガイド」という肩書を使い始めた経緯はコストリカのエコツーリズムを目の当たりにした体験に始まります。外国人観光客を対象とする自然観察ツアーが一大産業になり、その舞台を作るために自然再生をしていることに驚きを覚えたそうです。エコツーリズムは日本の自然を守る確かな力になると感じ、具現化できる地方を探す

ようになりました。

大江町へ移住したきっかけは東京で開催されていた新規就農イベントに参加したことです。OSINの会

(大江町就農研修生受入協議会)に出会い、自分の話を熱心に聞いてくれた会長さんの姿勢に感動して、大江町への移住を決めたそうです。

佐々木さんに将来の目標について尋ねたところ「エコツーリズムの確立です。環境保全を経済的な利益につなげたい。自然観察でお金を稼いではいけないという風潮を変えたい。

現代の『里山』には仕事がないから人が減り、手入れが不足し、結果的に動植物も減っている。里山に手をかけて生物多様性を高め、そこから収入を得るシステムを作ることが、長く自然を守る鍵になる。」と熱く語っていたことが印象的です。

佐々木さんは将来、農家民宿の経営も考えているそうです。『やまさあーべ』の側には柳川温泉もあります。自然と温泉を観光資源にして、多くの人たちを大江町に集め、地域の活性化に貢献してもらいたいと思います。

〔村山総合支庁森林整備課〕

## 森の人紹介

### 川下の木材コーディネーター

吉田 博 之さん



白鷹町の町づくり複合施設の建設に携わった、白鷹町

森林再生・木材コーディネーターの吉田さんを紹介いたします。

吉田さんは、白鷹町出身で、大学在学時に移り住んだ東京で、建築士として活動しておりましたが、家庭の事情により、地元に戻り建築士として活動するかわら、山形工科大学短期大学の特任教授として活躍されています。

一級建築士である吉田さんは、地域での下刈りや間伐等の体験から森林に関心をもち、さらに家業が工務店だったことも影響し、木材にも興味があつたため、「伝統木構造の会」にも参加していました。

そんな吉田さんが、森林にもっと深く携わるきっかけとなったのが、平成二十五年、二十六年に発生した豪雨災害で、白鷹町では、大きな被

害を受けたことから、森林の再生が急務と考え、白鷹町森林・林業再生協議会を立ち上げることになり、吉田さんは、その委員に選ばれました。

吉田さんはコーディネーターとして、林野庁から出向していた永野主幹と一緒に、町内の森林を回るとともに、町産材の利用促進には、木材産業の強化が必要と感じ、「おきたま木材乾燥センター」の設立にも尽力しました。

今回の町づくり複合施設の建設で苦勞した点、良かった点をお聞きしたところ、苦勞した点は、木造に関わる産業が衰退してしまい、事業者の確保に苦慮したこと、良かった点は、町産材で出来た施設を町民に見てもらえることや、山側の方が一緒に動いて頂いたことで、建築側では解らず不安になっていたことが、払拭できたことなどを挙げられていました。今後は、おきたま木材乾燥センターを手伝いながら、木造施設建築の普及を手伝いたいとおっしゃる吉田さん、木造施設の建築を広めていくには、吉田さんのように一緒に動いて頂けるコーディネーターが重要です。今後とも色々な場面でのサポートに期待します。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

# 木の温もりに包まれて

## 寒河江市立なか保育所

寒河江市が地域材をふんだんに使い整備を進めていた「市立なか保育所」の落成式が平成31年4月7日に現地で行われました。

なか保育所は、八角形の木造2階建てで延べ床面積1710平方メートル。総木材使用量420立法メートルの内、地域材である西山杉を280立法メートル使用しており総木材使用量の約7割を占めています。市担当者は「子ども達が触れるところは、外壁も含めて出来る限り地域



産材にこだわった「幼児期における「木育」を重要視した」とのことで、地域産材の利用拡大による森林整備や地域活性化・雇用拡大を図るほか、木造・木質化により、市民が木と触れ合い、木の良さを実感する機会を広く提供する施設となっています。

### 地域産材でのこだわり

玄関を過ぎると西山杉無垢材の床暖付きフローリングの広がる遊戯室が現れます。西山杉のフローリングは遊戯室だけでなく、各保育室や事務室でも利用されており、スギ特有の柔らかな感触が足に伝わってきます。また、30センチ角の無垢材8本が遊戯室を支え、その太さから雄大な木の迫力とともに、安心感が感じられます。

各保育室には、西山杉による集成材の柱が使われ、窓には筋交いで「樹」を表現しています。また、廊下の天井も西山杉のリップ天井とするなど、木質内装化に力が入っています。外壁は、西山杉を無害な防腐・防水・防虫加工を施して使用していま



す。また、目に触れることは出来ませんが、耐震・耐火性に優れたCLT（直交集成板）を一部使用しており、その材料にも西山杉を利用するなど、至るところに地域産材を活用するこだわりをみる事ができます。

一方、西山杉材の材料確保に時間を要したほか、木材加工等を県外工場に持ち込まざるを得ないこともあり、村山管内における地域産材利用拡大に向けた課題となっています。やまがた木育の推進にあたっては、子ども達が利用する木のおもちゃやプログラム、ノウハウが村山管内で習熟・周知されておらず、園内にあ



る木製おもちゃなどの購入先が他管内・他県であることも課題です。

村山総合支庁では、公共建築物等における県産木材の利用促進のため、管内市町と連携しながら県産材調達などの相互情報共有など、県産材の利用に取り組みやすい体制整備に努めていきます。また、暖房器具やボイラーを木質バイオマスを燃料とする機器等の導入及び県産木材を原料とした燃料の調達に対する情報を提供するとともに、県産材を利用した調度品の設置・購入について一層の促進に努めていきます。

〔村山総合支庁森林整備課〕

# 最上管内の高性能林業機械の導入状況

## ◆はじめに

最上管内では、木材加工工場の稼働が相次ぎ、管内の木材需要の大幅な増加が見込まれていることなどから、素材生産事業者の高性能林業機械の導入意欲が大変高まっています。

このたび、県内でも最大級の大径材の伐採作業を可能とするハーベスタ、本県初の導入となるフェラーバンチャを管内の事業者が整備しましたので紹介いたします。

## ◆内容

### ①ハーベスタ「フィンランド製」

(LOGSETH65)

・事業者 有限会社小関興業

・価格 3、150万円

・特徴 最大直径65センチまでの伐採が可能で、大径木の間伐や皆伐時に威力を発揮する。送材時の測長も極めて正確で、一連の動作もストレスなく大変スムーズで生産性の向上が期待される。

### ②フェラーバンチャ

(AFM220FH)

・事業者 有限会社小関興業

・価格 756万円(ヘッドのみ)

## ・特徴

間伐等小径木の伐採及び集材、再造林を行う際の地ごしらえ作業等に幅広く使用される。冬期間の効率的な伐採にも活用を検討している。



ハーベスタ



フェラーバンチャ

## ◆まとめ

林業界における労働力の確保は大きな課題であり、効率的な素材生産を進めるためには、高性能林業機械の導入は大変有効な手段となります。管内には素材生産事業者が大変多いことから、県としても高性能林業機械の積極的な導入に向けた指導・助言をしっかりと進めています。

[最上総合支庁森林整備課]

# (株)ヤマムラがJAS機械等級製材工場を整備

本県の豊かな森林資源を「森の恵み」、「森のエネルギー」として活かしていく「やまがた森林ノミクス」が推進する事業として、新庄市福田の新庄中核工業団地で整備を進めていた株式会社ヤマムラの新製材工場が5月13日から稼働しました。

(株)ヤマムラは、長らく中大規模木造建築と製材に取り組んできましたが、今回、構造計算によって適材適所を実現できるJAS機械等級区分製材を自ら行うために整備したものです。今年中にJAS認定(JAS機械等級区分製材、JAS人工乾燥材)の取得を計画しています。

整備内容は新たに本社の隣接地に



整備した約9,000㎡の敷地に鉄骨平屋の建屋(1棟)、貯木場(1、200㎡)、製材設備(台車製材、4面モルダ、ギ

ヤングソー)、乾燥設備(3基)、グレーディング設備(曲げ試験機、水分計)を設置しています。従来の製材工場には羽柄加工機を設置し、構造材以外の生産も行います。

原木等の供給元については、素材生産業者はもとより、製材業者からラフカット材の供給を受ける予定となっており、年間5、800㎡の原木等を利用する計画です。



所在する新庄中核工業団地にはB材を活用する集材工場、C・D材

を活用する木質バイオマス発電所があり、A材を活用する本工場が本格稼働し、A材からD材まで森林資源を有効活用する拠点となりました。県ではこの取組みにより、最上の地域材が公共施設や民間施設へ供給されることを期待します。

[最上総合支庁森林整備課]

# 白鷹町の森林・林業再生への取組みと まちづくり複合施設整備について

## ◆はじめに

白鷹町では、平成23年の東日本大震災を契機に翌24年から役場庁舎を含む施設の在り方について検討を進め、この度、その成果として「まちづくり複合施設」が完成し、5月7日から供用を開始しましたので、ご紹介いたします。

## ◆町が抱えていた課題

白鷹町は、森林率が約65%、うち人工林率が県内で最も多い約53%、さらに民有林率が約59%となっており、戦前戦後に植林した木（主にスギ）が主伐の時期を迎えています。しかし、木材価格の低迷や、林産業従事者の減少等から、60年生を超えたスギの利用が進んでいない状況にあります。一方、平成25年、26年と2年連続で当町を襲った豪雨災害時には、スギの大木が根をつけたまま山から流出し、河川や水路をせき止め、水害の一因となりました。それらを目にした町民の皆さんからは、森林整備の大切さや、資源としての利用について、様々なご意見を頂きました。課題として①森林の活用ができて

いない、②既存施設の老朽化、③災害時の本部機能の脆弱さ等があり、課題解決に向け、白鷹町産材による役場庁舎を含む複合施設の整備に取り進むこととなりました。

## ◆森林林業再生と白鷹産材活用に向けた取組み

平成26年に町内の事業者や、財産区議員、NPO法人等で組織する「白鷹町森林・林業再生協議会」を設立し、将来ビジョン作成や境界明確化に着手するとともに、平成28年には、植林・育林を支援する「白鷹町森林再生基金」を設置しました。

また、町産材活用に向け、町内の一級建築士である吉田博之氏をコーディネーターに委嘱し、林野庁のソフト事業により、公共施設への木材供給について検討しました。その成果として、4寸8寸の4m平角材として木取りしやすい丸太を施設の材料として利用することとしました。加えて、平成29年には建設会社や製材所6社で構成する「おきたま木材乾燥センター(株)」が設立され、町内で乾燥、製材を行う体制が整いました。

なお、この施設は本年3月にJAS認定工場(機械等級区分)となりました。

## ◆施設の特徴

町民の意見を設計に反映したうえで、関係者が連携して木材を供給する体制を築き、平成29年7月に工事に着手しました。施工は、地元の那須・鈴木特定建設工事共同企業体に担っていただきました。

施設の主な特徴は次の通りです。

- ①床面積4,558㎡の木造2階建、耐火建築物を含めた8棟構成
- ②構造物から仕上げまで白鷹産材を活用した施設(木材使用量約1,710㎡、町産材が約75%)
- ③地元産材を燃料とできるバイオマスポイラーを導入
- ④町民活動の拠点となる町民ラウンジ、ミーティングスペース、図書館を設置

## ◆財政的な支援

この事業では先述した林野庁のソフト事業に加え、山形県森林・林業再生基金づくり交付金や総務省の交付金、過疎債、公共施設等適正管理推進事業債などを活用させていただきました。特に基金づくり交付金については、森林整備課と打合わせを重ね、申請など様々な面でご指導いただきました。

また、積立てを行っていた公共施設整備基金を充当し、将来への負担をできるだけ軽減しております。



まちづくり複合施設の内観(大会議室)

## ◆おわりに

今後、既存の旧役場庁舎等を解体し、外構工事、駐車場を整備し、今年度末には全体事業が完成する予定です。当町では、ほかに「愛真こども園」や、「日本の紅をつくる町推進拠点施設山峡(やまかい)紅の里」、新老人福祉施設「白光園」など、町産材での木造施設整備が進められています。今後も様々な方法で森林の保全と木材の利活用に取組むとともに、この施設が町民の方に親しまれるよう望んでおります。〔白鷹町〕



# 「JTの森 鶴岡」第3期協定締結

## 企業と地元の協働による海岸砂防林の再生を目指して

### ◆はじめに

「JTの森」は、日本たばこ産業株式会社、地元住民等と一緒に植栽や下刈りなどの森林保全活動を行っているもので、全国で9カ所に設定されています。

「JTの森 鶴岡」は、「やまがた絆の森」協定の主旨に基づき、日本たばこ産業株式会社、山形県、下川生産森林組合、鶴岡市の4者間で平成21年3月に第1期協定を締結したも



ので、東北で唯一の「JTの森」です。日本海側から吹く強風と飛砂の被害から庄内地域の暮らしと農作物を守ってきた、クロマツを主とする海岸砂防林の一部(約25ヘクタール)において森林保全活動を展開しております。

活動には、日本たばこ産業株式会社の社員並びに御家族をはじめ、土地所有者である山形県・下川生産森林組合・鶴岡市のほか、地域住民会やターゲットバードゴルフ愛好者、陸上競技連盟、JA鶴岡西郷支所、出羽庄内森林組合、温海町森林組合などが参加し、庄内森林管理署や、やまがた公益の森づくり支援センター等から御指導をいただきながら、毎回150人規模で植栽や下刈りなどを行ってきました。

### ◆これまでの経過

これまでの2期10年間の「JTの森 鶴岡」の活動では、延べ2,307人から参加していただいているとともに、日本たばこ産業株式会社と地元森林組合との業務委託による森林整備を行ってきました。

第1期協定では、外来植物であるニセアカシアの駆除によって松林に空隙が生じたところに松の苗木を植栽し、下刈りや枝打ちなどの施業を行ってきました。

続く第2期では、松くい虫被害が過去最大となったことから、伐倒した枯損木の運び出しや枝の処理を行いました。

平成31年2月には第3期の協定を締結し、新たに松林の再生に取り組むことにしました。



### ◆第3期協定の概要

第3期の協定では、松くい虫被害林の再生と老齢木の更新のために、松くい虫被害に強い抵抗性マツの植

栽や下刈り、地域産間伐材を使用した防風柵の設置などを実施し、海岸砂防林の機能を再生することを目的としています。

### ◆終わりに

本市の海岸林は、庄内地域の住民の暮らしや砂丘地の農業を守るために、先人が並々ならぬ苦勞のもと、造成・維持・管理をしてきた貴重な財産であり、地域の宝です。

今後とも、企業や地域住民などの多様な主体との協働によって、次代に引き継ぐ活動を行ってまいります。



〔鶴岡市農山漁村振興課〕

# 「やまがた絆の森」と連携した 森林整備について

## 一、絆の森との連携

「やまがた絆の森」は、企業と地域の連携の下、森林整備を通して森林の多面的機能の維持や地域の活性化を図ろうとするものですが、近年は社会貢献や社員教育の一環として取り組まれる企業が増えていきます。

山形県林業公社でも県や関係団体と連携して勧誘活動を積極的に行うとともに、企業からの助成金を活かした森林整備や、公社有林を活動の場として提供するなど森づくり活動を支援しています。

## 二、助成金を活かした森林整備

この森林整備の仕組みは、企業から一定額を負担していただき、林業公社が森林整備を行った成果を山形県二酸化炭素吸収量認定制度を活用し温暖化防止効果としてお返しすることで企業の独自削減目標や「持続可能な開発目標」の取組に貢献するものです。

現在、三社からのご支援により三地区延三二九ヘクタールで森林整備に取り組んでいます。事業期間は三〜五年間で、一地区当たり年間百万円程度をいただいています。林業公社としては、これにより作業道開設延長が長いなど従来は取り組めなかつた林地での整備が可能となり、公社の経営改善にもつながっています。

## 三、今後の取組み

林業公社では、森林整備による地域社会への貢献や一層の経営改善を図るため、今後も県や関係団体と連携して企業への働きかけを広げていきます。  
〔公財〕山形県林業公社

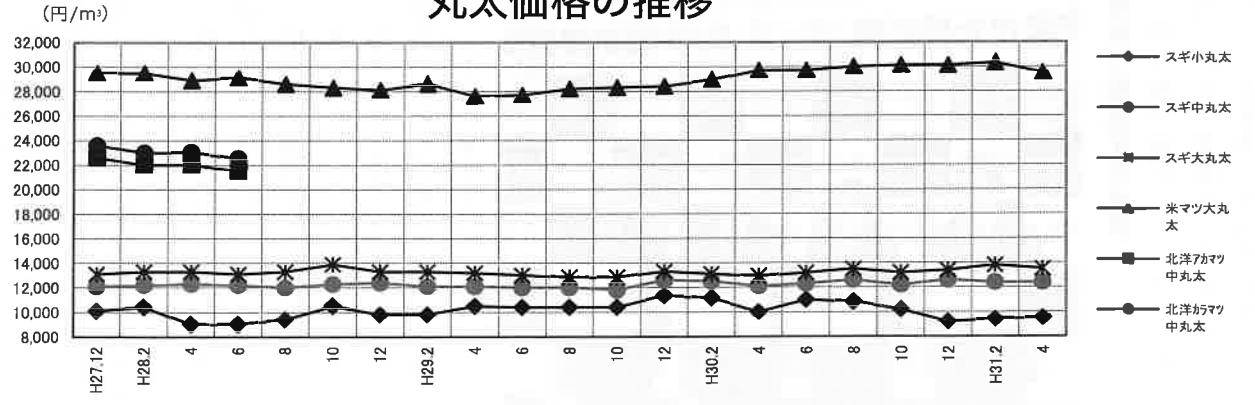
## ○助成金による森林整備

名 称	協 定 企 業	協 定 面 積	森 林 整 備 内 容	年 間 助 成 金 額
やまぎん蔵王国定公園の森	山形銀行	196.86ha	除間伐等	1,000千円
ニッサンの森 朝日白倉	山形日産自動車 日産プリンス山形販売	75.48ha	除間伐等	1,100千円
あいおいニッセイ 同和損保の森(西川陸合)	あいおいニッセイ 同和損害保険	56.30ha	除間伐等	1,000千円

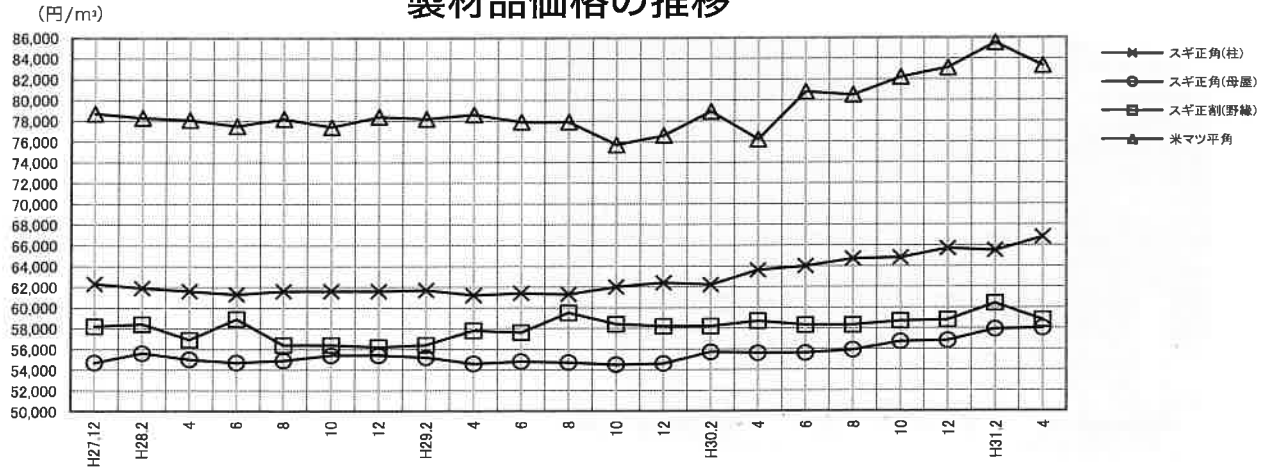
## ○森づくり活動への支援

名 称	協 定 企 業	協 定 面 積	活 動 内 容
南陽「草木の森」	国土防災	75.85ha	下刈、森のホームステイ等
天童・不思議の森	滝の湯ホテル、新東京ジオ・システム 天童木工、東北バイオニア	13.90ha	ほだ場の造成管理、間伐材の利用等
伊藤園 お〜いお茶の森	伊藤園	2.93ha	下刈、枝打ち等

## 丸太価格の推移



## 製材品価格の推移



森林やまがた 一八二号

令和元年七月二十日発行 (隔月発行)  
編集・発行 山形市松栄一丁目五番四一号  
山形県森林協会

監修

山形県農林水産部  
印刷所 渡辺印刷

定価 二八八円